

(様式第15号)

特定不妊治療費助成事業実施医療機関における情報提供様式(任意事項)

医療法人ART

医療機関名 岡本ウーマンズクリニック

本項目についての記載は必須ではありません。可能な範囲で記載してください。

治療実績について

施設における不妊治療による治療成績を記載してください。

当院において、データの揃っている直近の1年間(2019年1月から2019年12月まで)に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚(卵)を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数(回)	32	0	159	191
移植総回数(回)	3	0	20	23
妊娠数(回)	0	0	0	0
生産分娩数(回)	0	0	0	0
移植あたり生産率(%)	0	0	0	0

IVF-ET: 採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split: 採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI: 採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数(回)	366
妊娠数(回)	160
生産分娩数(回)	96
移植あたり生産率(%)	26.2

来院患者情報

施設を受診した患者数について記載してください

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（実数）は

25歳未満	（ 2 ）名
25歳以上30歳未満	（ 78 ）名
30歳以上35歳未満	（ 260 ）名
35歳以上40歳未満	（ 413 ）名
40歳以上43歳未満	（ 163 ）名
43歳以上	（ 48 ）名

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満	（ 0 ）名
20歳以上30歳未満	（ 0 ）名
30歳以上40歳未満	（ 0 ）名
40歳以上50歳未満	（ 0 ）名
50歳以上	（ 0 ）名

治療指針について

施設における統一された治療指針がありましたら記載してください。

（記載欄）

別紙に記載しています。

（治療指針の例）

- ・治療のステップアップ・ステップダウンに関する考え方
- ・年齢に応じた治療の選択
- ・調節卵巣刺激法（自然周期・低刺激、高刺激等）の選択

等

治療指針について

当 ART 施設における不妊治療（体外受精）の統一治療方針：アメリカ不妊学会 ASRM およびヨーロッパ不妊学会 ESHRE の Guideline を参照して、国際的な Global Standard に近づけ Evidence Based Medicine (EBM) に基づく医療を心がけている。院長岡本の留学先 Monash 大学での師 Alan O Trounson 兄弟弟子 David Gardner 著 Textbook of Art vol.1 Laboratory Perspectives vol.2 Clinical Perspectives に準拠して現在国際的な Golden Standard となっている、All Cryopreservation (Freeze All Embryo) ,Segmentation,Vitrified Single Blastocyst Transfer を執り行っている。すなわち、採卵周期と単一保存胚盤胞移植を分けて別々の周期に実施、一回の採卵で得た複数の胚盤胞を個々ガラス化保存し移植することで、多胎妊娠と卵巣過剰刺激症候群を回避している。反復不成功症例、連続流産例には、日本産婦人科学会の特別臨床研究に参加して着床前遺伝子検査による Euploidy 胚の移植を試み妊娠継続例も出している。従って分割胚移植、新鮮胚移植は、やむを得ない症例のみに限っており他施設との成績比較には適さない。男性因子不妊の TESE は泌尿器科医の生殖医療専門医が長崎にいないので福岡の泌尿器科で実施した夫の TESE 精子を移送して当科で ICSI を行っている。Roshe 社のホルモン迅速測定装置、GE 社 E10 3 次元超音波断層装置での 3D 卵胞測定、正規の clean room 内での培養ラボ内に設置したナカメディカルの Time Lapse Incubator Nikon 倒立位相差顕微鏡顕微授精 Manipulator Piezo 装置 レザ-照射装置などを備えている。High End の技術で累計生産率 55-60% を Keep している。調節卵巣刺激は GnRH antagonist agonist 標準および Delayed Start が First Choice 40 歳以上の Poor Responder に GnRH agonist (Short 法) 実施 PCOS など High responder 症例には、新 Letrozole (Okamoto method) で Trigger 直前の血中 Estradiol 値を安全域まで調整し OHSS の完全防止策を講じている。経膈超音波断層が 1 下ピンポイント胚移植を考案し全例モニター画面を患者と共有しながら実施、好評を得ている。これらの改善策が評価され、昨年度日本生殖医学会より表彰され功労会員の称号を得た。